

SINAPIS



社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニューズレター

年間テーマ ～ 互いに耳を傾けよう ～

Vol.
72

2022.5



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

今月のテーマ

憲法

写真の説明：
マリア像（サレジオ会 ローマ本部）と
「マリアの取次ぎを願って捧げるヤマユリ」
(mjさん作)

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

子どもたちに 伝えたい平和



「正義が平和の前を歩く」

いずみブロック宣教司牧チーム
村田稔神父

ウクライナでの紛争が続いています。誰も平和を求めています。ただ戦いをやめることが平和とはいえません。教会には詩篇の言葉をもとにした「正義が平和の前を歩く」という教えがあります。国籍、宗教、言語、地位、階級、そして支配者、被支配者にかかわらず、人が一人の人間として尊重され、受け入れられる、そのような正義があってこそ平和が成し遂げられるということをまずお話ししたいと思います。

そのように考えるようになったきっかけをひも解くと、幼いころの記憶がよみがえります。昔、「おこじきさん」と呼ばれる人たちがいました。あるとき、この人たちに食べ物の入った袋をぞんざいに渡した私を、母親が叱りました。その渡し方は何かと。「もらう人」と「与える人」、そこに上下関係はなく尊重し合わなければならないということはこの時教えられました。長じて神学生となった私は、「蟻の街」と言われた貧しい地域で子どもたちなどとかかわりあう「セツルメント」に参加するようになりました。アメリカに留学して叙階し、大阪教区に呼ばれて帰ってきてからは「蟻の街」で活動していた司祭が神戸で始めた暁光会に入り、活動を続けました。教会は弱い人の立場に立つこと、外から見ているだけではなく自らもその場所にいることが必要だと考えていました。

その後湾岸戦争が勃発しました。大阪教区が呼びかけて全国から寄付を募り、民間のチャーター機を飛ばして市民の力で戦地から安全な場所への退避を支援しました。この時に集まった資金をもとに「平和の手」が発足しました。戦争の収束に向けた活動だけでなく、そもそも戦争が起きないようにする取り組みも必要であることに気づいたのです。そして東南アジアや中近東、カンボジアなどで生活を安定させるための支援や教育活動を始めました。この活動は今でもカトリックの組織によって続けられています。また、仲間の司祭たちと「21世紀を考える若い司祭の会」を発足させ、のちの「新生計画」の基本となる将来の教会のあり方を考え始めました。その方針を打ち出す直前に阪神淡路大震災が起こりました。当時、対策本部となった旧司教館には司祭たちが泊まり込み、救援活動を行いながら夜通し復興と今後の教会のあり方について話し合いました。教会の建物を建て直してよしとするのではなく、地域社会の復興に教会が貢献できたらという切実な思いがありました。

正義のあるべき姿とは、その人がそのままであることの価値が受け入れられることです。一人ひとは無力に思われるかもしれないけれど、「あなた」がいなければこの世界は成り立たず、誰もあなたの代わりにはなりません。力のない私やあなたにこそ価値がある、それが少しでも多くの人に伝わり、それをもとにいろんな発言や行動が起こっていく、それが正義の本筋であり、またそれしかないといえるでしょう。

数々の絵本と出会ってこられた多湖敬子さんをお願いして、「平和をつくる」ヒントをご紹介いただく連載新企画です。

NEW

子どもの本で平和をつくる

多湖敬子

大阪教区「正義と平和」協議会のニューズレターを編集して13年余り。その後、「子どもの感性を育てたい！」そう思って、昔とった杵柄(幼稚園教員、家庭文庫主宰)を生かし、絵本の読み聞かせを始めて十数年が経ちます。

絵本は子どもの本だから…と侮れません。平易な言葉で書かれていますが、なかなかどうして、深い洞察があります。心の真髄にグサッとささります。

やさしい言葉で「平和」を伝えたい！との思いから、小教区の平和旬間行事で、何度かプロジェクター投影をしながら絵本を朗読しました。この試みは概ね好評で、皆さんの心にスーッと入っていくみたいです。これは絵本の持つ力です。(プロジェクターなどで拡大投影する場合は著作物の利用許可申請が必要)

SNS も良いですが、紙媒体の絵本は親子のコミュニケーションツールとしても最高です。親子で「平和」を考えるツールとしても、ぜひ「子どもの本で平和をつくる」で紹介する絵本を活用して下さい。

戦争で壊れた街中を歩くアンネリーゼとペーター。近くの建物に、人々が並んではいっていきのが見えたので、「食べ物でももらえるのかしら？」と、その列に並びました。その建物の大広間には、たくさんの本が並んでいました。アンネリーゼは、前に行ったことのある図書館や読み聞かせをしてくれたお父さんのことを思い出しました。今はもうその図書館もありませんし、お父さんも亡くなってしまいました。

ある日、アンネリーゼはお金もないのに市場の屋台にぶら下がっているソーセージに手を伸ばそうとしました。その時、弟がききました「きょうも、本のあるところにいける？」と。アンネリーゼはハッとして手を引っ込めました。

大広間に行くと女の人が読み聞かせをしていました。弟と一緒に前の方に行って、お話を聞きました。それは日本でも訳されている「はなのすきなうし」(岩波の子どもの本)でした。

「おはなしがすすむと、ペーターがいました。『あの牛は、ぼくみたいだね。花がすきで、たたかうのがきらいなんだ』フェルディナンドが、闘牛士たちがのぞむようなたたかいをしないとわかると、アンネリーゼはこわくなって目をふせました。パパは、たたかえという命令にそむいたので、ころされてしまったのです。」(「子どもの本で平和をつくる」本文より)

女の方はたくさんの絵本や児童書を紹介してくれました。

その夜、アンネリーゼは戦争で壊れた図書館のまわりのがれきを、きれいにしようと思いました。いつかまた図書館にたくさんの本が並ぶことを夢みて。

アンネリーゼたちに本を読んでくれた人は実在した人、イエラ・レップマンでした。

1891年ドイツに生まれたユダヤ人で、国際児童図書評議会(IBBY)、世界で初めての国際児童図書館(ミュンヘン国際児童図書館)を創設した人です。1936年、イエラと子どもたちは、ナチスドイツに追われてドイツから逃げなくてはいけなくなりましたが、第二次世界大戦後、イエラは生まれ故郷に帰ります。

「そして、戦争のせいでつらくかなしい体験をした子どもたちを助ける仕事をするようになりました。イエラは、子どもには、食べものと同じように、本もひとつようだとしんじていたからです。」(あとがきより)



子どもの本で平和をつくる

作：キャシー・ステインソン

絵：マリー・ラフランス

訳：さくまゆみこ

出版社：小学館

価格：¥1600+税

IBBY(国際児童図書評議会)は、戦争や、社会の混乱や、地震とか津波などの自然災害で被害を受けて、こまっている子どもたちを助ける活動を2005年から行っています。この本の売り上げの一部は、IBBYのチルドレン・イン・クライシス基金(困難にある子どもたちを支えるための基金)に寄付されます。

情報保障に関する体験

カトリック芦屋教会 内野直幸

私は点字とかかわって50年近くになります。盲学校に通っていた時には点字の教科書、盲学校からのお知らせ、盲学校便りなど、盲学校からのほとんどの情報は点字になっていました。地元の情報は、広報芦屋広報あしや、最寄りの鉄道の駅の時刻表など、これもほとんどを点訳し、無料でお知らせしてくださっています。

現在では、カトリック芦屋教会の情報はメールで、カトリック時報やシナピスニュースは点訳を無料で送ってくださいます。

私の日常生活では、現在まで点字の情報がなくて特別困ることは起きていません。しかし一般的には、まだまだ点字の情報が足りないかもしれません。

鉄道の駅などでは、行き先案内や、運賃表など、点字で案内されていないところも多いです。また一般の施設内では、ほとんど点字の案内がありません。

これからして頂きたいことは、食堂やレストランで、点字のメニューをどこでも作って下さればと思います。

また点字とは離れますが、できれば、すべての鉄道駅にホームドアを設置していただきたいです。電車の接近放送の音が小さい駅もあり、通過列車が来る場合はとても怖い思いをしています。

道路では歩道と車道の区別がわかりにくいところ、路上に点字ブロック(誘導ブロック)が無いところ、歩道に柵が無いところが沢山あります。

視覚障がい者にとって便利で住みよい街になっていくことを願っております。

またカトリック教会で、初めて行った教会や、普段とは形の違うミサや行事での案内もまだまだ足りません。あまりに案内が不十分で不安に感じることもさえあります。すべてのカトリック教会で、視覚障がい者に対する案内を丁寧にしていただければありがたいです。

またその日に配布される教会からのお知らせや資料も点字のものがあれば助かります。

そして教会内の点字ブロックの設置も進めていただきたいです。

そうすれば、教会活動が楽しく、充実したものになっていくと思います。

今後の改善に期待いたします。



部落差別人権委員会 対話集会に参加して

部落差別と人権担当 長崎壮

2月23日、サクラファミリアでカトリック大阪教会管区部落差別人権活動センター主催の対話集会が開催されました。新型コロナウイルスの蔓延が収まる気配のない時期にもかかわらず、参加者約20名が集まり、講師にお招きした大阪市立大学・関西学院大学非常勤講師で、部落解放論研究会共同世話人の谷元昭信さんの話と参加者との活発な対話の場となりました。

今年は全国水平社創立100年にあたることから、谷元さんの話のテーマも「水平社創立100年の今日的意味と今後の課題」というものでした。全国水平社創立100周年ということにつきましては、NHKの『バリバラ』というテレビ番組で特集が放送されましたのでご覧になられた方も多いかと思います。

谷元さんの具体的な話の内容は、100年前に西光万吉によって起草された水平社創立大会「宣言」の時代的な限界や、現代の視点から見た時の盲点を文学的・社会的な面から考察し、今日的な意味を問い直すというもので、谷元さんから提示された見解は参加者に新しい視点を与えたと思います。

この対話集会に参加した個人的な感想になりますが、1980年代に小・中学を関東地方で過ごし同和教育というものを経験した私にとって、この問題に関してよく言われる「寝た子を起こすな理論」を否定するというような理解には残念ながらもまだ至っていません。

ただ、この対話集会が開かれる前日の2月22日に行われた同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議のオンライン研修の中で、講師の関西大学内田龍史教授が話された「差別とはウイルスと同じく人から人へと移るものであるから、それを予防するためには部落差別問題に関する学習が不可欠である」ということばが頭に残っていたことは、この対話集会に参加した私にとって助けとなりました。

私たちキリスト者にとっての学習というのは、福音に根差した人権概念を悩みながらも考え続けることなのでしょう。

全国水平社 「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

1871年に出された「解放令」によって、江戸時代から続いていた身分制度は改められましたが、真の差別撤廃には至らず、差別は続きました。1922年3月3日、京都の岡崎公会堂には全国から約3000人の若者が集い、人間としての尊厳と平等を願い、自分たちの力で差別からの解放をめざす運動を進める「全国水平社」を創立しました。

この創立大会で採択された『水平社宣言』は、日本初の人権宣言とも言われています。

水平社宣言（要約）

「全国に散在する部落の人々よ、団結せよ。ここに我々が人間を尊敬することによって、自らを解放しようとする運動を起こしたのは当然である。我々は、心から人生の熱と光を求めものである。水平社はこうして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光あれ。」



平和の源は傾聴する力にある

■平和旬間とは

今年も平和旬間が近づいてきました。毎年恒例になっているこの期間について、改めて思い起こしたいと思います。

1981年に訪日した教皇聖ヨハネ・パウロ二世は、広島で「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と言われ、日本国内外に平和メッセージを発信しました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年より、8月6日から15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と定めたのです。

■テーマの意味

今年で40年という節目を迎えるにあたり、この経緯と思いを心に留めながら、平和旬間を可能な形で実行していきましょう。

題名は今年の平和旬間共通テーマですが、そこにはいくつかの意味が込められています。まず、英文を最初に掲げているのは、ともに暮らす外国人の方々と一緒に歩んでいきたいという姿勢の表れです。次に、Listening一耳を傾ける、という点ですが、これは現在進められているシノドスへの歩みと同調するものです。シノドスでうたわれているのは communion・participation・mission（交わり・参加・宣教）ですが、交わりを築くためには、何よりも耳を傾けることが不可欠です。

では、わたしたちは誰に耳を傾けるべきなのでしょう。皆さんはバチカンニュース日本語版を見ておられますか？ほぼ毎日更新されていますが、教皇様が4月にマルタからの帰国の機中で話された言葉が紹介されていました。

「すべての戦争はいつでも不正義から生まれます。そこに戦争の図式があるからです。(……)たとえば、武器購入のための投資。人々は、自分たちは防衛しなくてはならないと言いますが、これが戦争の図式です。第二次世界大戦後、皆が『戦争を二度と繰り返すな』と平和を望みました。平和のための取り組みが相次いで始まり、広島と長崎の後、平和のための核軍縮への意欲もありました。それは大きな意欲でしたが、70年経ち、わたしたちはそれをすべて忘れてしまったのです」

教皇様の言葉だけでなく、今年はぜひ平和旬間の企画に、外国人の方、高齢者の方から話を聞いてみてください。このような人たちから聞くことについて、教皇様はこう言われています。

「避難民というもっとも脆弱な立場にある人々と、ひどく病んでいるわたしたちの地球の叫びに(……)耳を傾けることで、隣人、多くの見捨てられた人、自分自身、そしていつくしみを絶えず与えてくださる神と和解する機会を得ます」(2020年5月13日)

「直接、対面で話をするコミュニケーションには、口調や独自の表現があり、他の手段では代わりになれません。長い時を生き、明快で情熱的な今までの人生のあかしというたまものを授かった高齢者は、かけがえのない恵みです」(2022年3月23日)

「外国人」「高齢者」という名前のない存在ではなく、「○○出身の○○さん」「今年で○○歳の○○さん」という人の話に直接耳を傾けることで、平和への道とともに歩むことができます。

なぜなら、「平和の源は傾聴する力にある」(教皇フランシスコ、2016年7月17日)からです。



今年はどのような平和旬間にしようかと、試行錯誤されているのではないのでしょうか。戦争と平和を考えるさまざまな資料館では、動画配信やパネルの貸し出しを行っているところがあります。コロナ禍でみんなで集うことができなくても、ミニパネル展や、動画の視聴などをしてみてはいかがでしょうか。参考になさってください。

●アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」

展示する： 日本軍「慰安婦」にかかわるパネル貸出

調べる： 日本政府に対して提訴された「慰安婦」裁判や女性国際戦犯法廷に関する所蔵資料の検索可能。貸出は館内のみ

その他の資料： 特別展のパネルパッケージ貸出

連絡先 Tel: 03-3202-4633 <https://wam-peace.org>

●沖縄平和祈念資料館

動画を見る： 戦争体験者の証言ビデオ貸出(多言語あり)

展示する： 沖縄戦の絵のパネル 小銃等の実物資料の貸出

調べる： 平和学習アーカイブ(証言、写真、地図など)

その他の資料： 平和学習キットの貸出

連絡先 Tel: 03-3202-3844 <http://peace-museum.okinawa.jp>



●知覧特攻平和会館

動画を見る： 学芸員による展示の解説(オンライン)

展示する： 知覧特攻のパネルの貸出

調べる： 学習資料のダウンロード

その他の資料： 特攻隊員や零戦に関する展示の物のオンラインミュージアム

連絡先 Tel: 0993-83-2525 <https://www.chiran-tokkou.jp>

●長崎市「ながさきの平和」

動画を見る： 原爆資料の動画(オンライン)

展示する： 「ミニミニ被爆展」のための被災資料(多言語データ)・原爆被災写真パネル・スライドの貸出

調べる： 原爆関連資料のアーカイブ

その他の資料： 平和学習教材の配布や貸出

連絡先 Tel: 095-844-3913 <https://nagasakipeace.jp>

●長崎原爆資料館

動画を見る： 被爆証言の動画（オンライン）

展示する： 原爆投下後の写真パネルの貸出

調べる： オンライン企画展

その他の資料： 原爆被災資料・絵本の原画スライドの貸出、被爆クスノキの苗寄贈

連絡先： Tel: 095-844-1231 <https://nabmuseum.jp>

●ピースおおさか大阪国際平和センター

動画を見る： 大阪大空襲の証言ビデオ貸出

展示する： 大阪大空襲、難民、地域紛争下のこどものパネルや絵の貸出

調べる： 人権一般、大阪空襲、沖縄戦関係、難民等の資料多数

その他の資料： 戦時資料（ゲートル、召集令状、水筒など）の貸出

連絡先： Tel: 06-6947-7208 <https://peace-osaka.or.jp>

●広島平和記念資料館

動画を見る： 被爆者の証言、被爆の記録映像など（オンライン）

調べる： 平和データベース（写真、絵画、音楽、資料など）

その他の資料： 原爆の絵、被爆資料のデータ、美術品の貸出

連絡先： Tel: 082-241-4004 <https://hpmmuseum.jp>

●立命館大学国際平和ミュージアム

*リニューアルのため 2023 年 9 月まで休館中 ただし、Web サイトは閲覧可能

その他の資料： 戦争にかかわる資料の Web 展示

連絡先： <https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp>

※その他、戦争と平和に関する DVD や書籍は、
シナピスにも置いています。
お問い合わせください。



シナピス事務局 ☎:06-6942-1784

E-mail: sinapis@osaka.catholic.jp



▽正義と平和大阪大会事務局より▽

— 録画限定公開のご案内 —

大阪教区公式ホームページにて5月中旬より分科会の記録を随時アップいたします。

社会活動委員会や、平和旬間などの学習会で活用してください。

詳しくは教区ホームページ「正義と平和大阪大会」をご覧ください。

<https://www.osaka.catholic.jp/> ▶▶▶



助けてください

◇ アリさん一家 ◇



強制送還のため国境に追いやられた
アフガニスタン避難民たち

タリバンから殺害予告を受けてイランへ避難したアリさん一家は、今どうしているでしょうか。

イランには 2021 年 8 月にアフガニスタンから米軍が完全撤退する以前から 150 万人にも上るアフガニスタン人が住んでいましたが、タリバンがカブールに侵攻して以来、わずか半年で更に 50 万人ものアフガニスタン人が流入しています。それがイラン社会に負担をもたらし、アフガニスタン人を排斥する動きが大きくなっています。

イラン政府は、ビザのないアフガニスタン人を容赦なく強制送還し、その仕打ちに怒ったアフガニスタン人が、ヘラートのイラン大使館に投石をしたり火炎瓶を投げ込むなどし、両国の関係が悪化しています。

アリさんは言いました。「イラン大使館への襲撃に激怒したイラン人が今度は私たちを苦しめます。」

イランでは私たちは無視され、暴力をふるわれ、物を売ってもらえず、売る時には高額をふっかけられます。イランにも場所がない」

アリさん一家を日本で受け入れるすべがなくなった今、カトリック教会のネットワークを生かしてどこかの国と協働でアリさんのような難民を救出できないか、私たちは今日もその道を探しています。

※日本の難民認定率は 1% 以下です。日本国憲法には「国民の生存権の保障」が謳われています。

『国民』だけではなく世界の人権基準に則って、生存権が保障される社会の実現を目指し活動を続けていきたいです。

◇ R (ロキア) さん一家 ◇

助け合う

先月号までは R さん一家と紹介してきたロキアさん一家が、いよいよゴールデンウィーク明けに埼玉から大阪へ引っ越してきます。ロキアさんと夫、16 歳と 7 歳の息子の 4 人家族です。一家は埼玉の親戚の家で日本語を勉強中で、挨拶や自己紹介が出来るようになりました。先日も Zoom 会議に参加してくれ、早く大阪に来て皆さんに役立つ仕事がしたいと話していました。みなさまにご挨拶できる日も近いと思います。

シナピスではロキアさん一家の支援にご協力くださる方を募集しています。

- ◇住居探し
- ◇家具や電化製品などの生活用品の寄付
- ◇日本語学習支援
- ◇区役所や学校、買い物などの外出時の同行支援
- ◇その他生活全般の相談サポート

どんなことでも構いません。ご協力を頂ける方はシナピスまでご連絡をお願い致します。

4月の祈りの集い

◇学びと祈りの集い～平和を求めて～◇



『丸腰の市民が強制移住をさせられるということ』をテーマに、「オンライン学びと祈りの集い」を4月4日（月）に行いました。ロシアの軍事侵攻、新型コロナウイルスの蔓延、自然災害など私たちは不安のただ中に暮しています。その中で起きている出来事に向き合い正しく学び平和な社会を実現させるための知恵と実行する力を願い求めるために祈りました。

集いでは、第一部<学び>で、びわこバプテスト聖書教会恒松勇牧師からロシアが軍事侵攻する以前のウクライナ市民の生活の様子を聞き支援活動について学びました。第二部<分かち合い>ではアフガニスタンからイランまで逃れて来たハザラ民族のアリさん一家に電話インタビューをした音声を聞きました。小さな子どもを抱え家族8人で生きていく道を探っているアリさん一家の悲痛な叫びから、今回のテーマである丸腰の市民が祖国を去らなければ生きていけない現状を改めて思い知らされました。最後に第三部<祈り>では学んだことを受け止め、自分たちがどのように社会に貢献出来るのかを考え、平和を実現させるための道を歩めるように祈りました。

遠く離れた国の出来事を正しく知る事は容易ではありません。けれど一人でも繋がる人がいればそこから多くの事を学ぶことが出来ます。出来事に正しく向き合う知恵を求める機会になりました。

◇十字架の道行◇

シナピス主催第7回「祈りの集い～世界平和のために祈る～」を、4月7日に行いました。四旬節中の今回は、復活祭を目前に十字架の道行をテーマに、十四留の黙想をイエスキリストの受難の道のに合わせ現代社会における意向でお祈りを捧げました。それぞれの思いがこもった意向を多くの奉仕者の方に唱えて頂くことができました。中でも、難民申請中の男性が「宗教的な差別や迫害によって国を追われた人びとのために」という意向で唱えた祈りは当事者の切実さがひしひしと伝わり印象的でした。喜びへと私たちを導く苦しみの道、復活を準備する十字架の道をキリストと共に歩んでいると実感できたひと時でした。

今後も今回の様にいつもとは違う「祈りの集い」を試みていきたいと思っています。みなさまの身近にある出来事、身近な人のために祈りたいという投げかけもお待ちしています。

次回は5月12日（木）20時半～ ロザリオの祈りを捧げます。
先唱奉仕をしてくださる方を募集しています。
シナピスまでご連絡をお願いいたします。



シナピスホーム便り

今月は月に一度ランチをお出ししている土曜日の様子をお伝えします

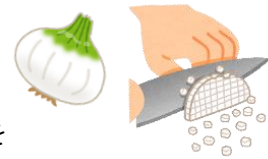
山田 直保子

OPEN!! 2022年4月16日 11時~16時



朝から、スリランカ料理のビリヤニの準備でスリランカ人女性が指示して、みんなで手伝って作っていきます。途中、手伝っている2人が切った玉ねぎのみじん切りが大きかったらしく「ちがーう、全然おおきさちがーう。味かわるー」と怒り出してしまい、最初にお手本として切って見せたものと全然違うと言い始めました。以前、野菜の切り方で同じような揉め事があった経緯もあり、私が切ることになりました。あとで一人の移住者は「国で切り方も大きさも全然ちがうから」と言っていました。

幸いにも相手は男性だったので、あまり気にしていない感じで「ああ、大きかったね。ごめんごめん」と私がやり直しをしている所



動画に撮ったりしていたので、ホッとしました。彼女もサラッとしている性格なので、そうは言いながらも「じゃあ次はこれして」と次々にやることを指示してくれていました。

しかし!! 11時オープンなのですが、全部出来上がっていません。前日仕込むと味が変わるというので、当日イチから始めたため間に合いません。11時からオープンだから前の日にもある程度準備しないとダメだと注意しながら基本的な話をしました。

12時にはお二人が来訪。早速食事の用意をしました。

そのうちのおひとりは準備している間、写真を撮られたり、リビング外に貼ってある「みんなの写真」や工房商品を見たりしておられました。

メニューの「ビリヤニ」も写真を撮ったり、レシピを聞きながら「美味しいです」と喜んで下さいました。

その後またおひとりお越しになりましたが食事はとられないとのことでドリンクのみお出ししました。

続いて、ご近所にお住いの男性が初めて来訪。以前から看板を見てこんな所にカフェがあるのかと気になっていたそうです。「カトリックの施設で難民支援をしていて、ここは難民移住者がもてなすカフェなんです」と説明し、ランチも食べたいとのことで召し上がっていただきました。



「後味が少しピリピリするけど、とてもおいしい」と喜ばれ、スタッフから日本の難民認定がどれほど少ないかなど聞いて、びっくりしておられました。

仮放免者の子どもたちも、親と同じく仮放免となり、大阪府から出るときは、前もって入管に旅行許可を取らないといけないので学校の友達と(例えば)「京都に遊びに行こう!」と盛り上がりながらもすぐに返事ができないといった不自由さや、就労禁止なので、アルバイトもできないこと、学校の友達からは誘うのに気を遣うがために誘いにくいと言われるなどの困りごとが発生しているという話を聞き「本当にひどい話ですね!日本で生まれ日本で育ったのに!そういうのはどこに電話して文句いったらいいのですか?」と一緒に怒ってくださってとても嬉しかったです。ホームは仮放免者の現状を、ご存知ない方も知ってくださる大事な場所ですので、新しいお客様が来られると私たちはうれしいですが、難民移住者は警戒していて、カトリック以外の方だと特に警戒心がむき出しになる事があります。



ひとりの難民移住者は「どこからきた?何年日本にいる?なんでも聞かれる。怖い」と言い、「近所の方だよ」と説明していましたが、それだけでは足りず、もっときめ細かい言葉で説明しないといけないなと反省しました。彼らからすれば見知らぬ人は誰だかわからない、もしかしたら入管の人かもしれないといった不安が強く、身の上話を聞かれると、自分を探っている…?もしかして入管?と余計に不安が増します。しっかりゆっくり説明して理解した後はご機嫌さんでなんでも聞いてという姿勢で談笑してくれました。

ビリヤニをすごく楽しみにして来られた常連さんはあまりに食べる速度が速かったので、「おかわりする?」と冗談で言うと、「いいですか?お願いします」と言われおかわりされました。とても細かい方なのに難民移住者は驚き喜んでいました。二杯召し上がった後は、お気に入りのミントティーを飲まれて、お客様同士お話しされ楽しんでおられました。



先日もお越しくくださった若者もビリヤニをペロッと召し上がり、入管内の現状の話や旅行許可の話真剣に聞き入って何かできることはないかといつも考えて下さり、その気持ちがとても嬉しいです。

また、ひとりの難民移住者のお友だちも来訪。和泉市のほうにお住まいの昔からの知り合いだそう、入管に収容された時も、何度も面会に来てくださったり、たくさんの差し入れを持ってきてくださったりしたそうです。車で来られて、お宅へ泊りに行くとのこと。コーヒーを飲み、スマホでネットをしながら、お客さまと親交を深める姿もみられました。

ご近所の常連さんも来られ家族の話をしてくださいました。とても重い話になるので…と気を遣いながら話してくださいました。

今回のカフェもお客様をもてなし、ランチを提供して、直接「ありがとう」「美味しかったよ」と言われる喜びで溢れていました。難民移住者は忙しくばたばたしていてもお客様が来てくれるのがうれしいとロ々に言っていました。



投稿欄 “ガリラヤの風”



「今日一日、依存をやめる」

m. k

大阪教区内で会場をお借りしている依存症の自助会はご存じでしょうか。今回は最近よく話題に上がる「ギャンブル依存症」についてのお話をします。ご自身はもちろんのこと、ご家族の中に「ギャンブルがやめられない」そのような方がいらっしゃいませんか。「ギャンブル依存症」とは本人の意志の弱さではなく治療が必要な「病気」なのです。

神の愛～自助会につながること

(以下の内容は会を代表しての意見ではなく、私個人の体験に基づくことをご了承ください)

依存症は「孤独の病」です。例えば私のように家庭内暴力がある環境で育った場合の影響は大きく、過剰に人の目に脅え、評価を恐れる傾向があります。また「愛される」実感に乏しく、虚しさや生きづらさを埋めるつもりでギャンブルのように刺激的で多幸感のあるものを「過剰に」求めてしまうことがあります。しかし偽りの喜びしかありません。職場や家族からの信頼を失う頃には生きづらさ以上の負の感情を背負います。

自助会には同じような境遇の苦しみや辛さを持つ「仲間」がいます。誰にも理解されなかった話を無言で聞く人たちがいる。それだけで自分は存在して良いということに気づきます。そして経験を分かち合うことが誰かの役に立つという不思議な巡り合わせを体験します。

自助会に参加する条件は、ただ「やめたい」、それだけです。参加して今日一日は「賭けない」という思いを持ちます。仲間との交流のうちに、自分を越えた大きな力、それが神の存在だと気づくことで回復の道を歩み始めます。

負の連鎖を断ち切る

依存症の大きな問題は周りを巻き込んでしまうことです。苦しみぬいた家族が別の依存症になる場合や、家族の依存症に耐えぬいたこどもが大人になってから依存症になる場合も珍しくありません(私もその一人です)。無意識のうちにパートナーに依存症の人を選んでしまうこともあります。当事者だけでなく「負の連鎖」が世代を超えて起こることに依存症の恐ろしさがあります。本人が病気であると認めるまでには相当な時間がかかり、家族も理解のないまま巻き込まれます。この負の連鎖を断ち切りたい。それが私の願いであり祈りです。

私は自助会でお互いが共感し、大切に思うことを学びました。「隣人愛」の実践とも言えます。それは神の伝える愛でした。

やがて会場のある教会に出入りするうちに信者へと道を歩み、今では恵みの中で生きづらさや孤独感から解放されています。ギャンブルをやめて10年以上たちますが、常に仲間の隣人愛に支えられてきた過去なくして今を語れません。これからも決して忘れてはいけないのが「今日一日」の思いで鎖を断ち切ることだと思っています。

そして、今まさに教会の中にもこのように依存症で苦しむ人がいること、その影響を受けているご家族の存在があることを少しでも知ってもらえればと思います。

「ピース9の会」より 正義と平和全国集会 2021 大阪大会報告集のお知らせ



昨年 11 月に行われた、正義と平和全国集会 2021 大阪大会の憲法分科会(ピース9の会、改憲対策部会主催)「平和をつなぐ いま、キリスト者として憲法を考える」の報告集『平和をつなぐ 憲法分科会報告集』が出来上がりました。

分科会での池住義憲さんの講演、弘田しずえさんのお話と松浦悟郎司教とのトークの内容をまとめました。冊子を活動にご活用ください。

◇ご注文・お問い合わせは下記まで◇

日本カトリック正義と平和協議会 事務局

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

TEL:06-5632-4444 FAX:03-5632-7920

メール:jccjp@bcj.catholic.jp

※冊子の注文は 20 冊まで、数に限りあり。

日本クリスチャン・アカデミー・関西セミナーハウス活動センター より 新刊案内

日本クリスチャン・アカデミー、関西セミナーハウス活動センターでは 2011 年 3 月の福島原発事故以来、毎1回原子力発電に依存する社会の問題を考えるフォーラムを開催してきました。その第7回フォーラムの記録集『脱原発の必然性とエネルギー転換の可能性-地震国日本の現実とドイツの先例から考える』が出版されました。

この書籍を通して原発がはらむ問題を共有して頂ければ幸いです。

◇書籍のご注文・お問合せ◇

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134

京都府京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

TEL:075-711-2117

FAX:075-701-5256

メール:office@academy-kansai.org

新教出版社・新刊案内 2022年3月1日発売

脱原発の必然性と エネルギー転換の可能性

地震国日本の現実とドイツの先例から考える

西六判・並製・186頁・本体1,500円(税込定価1,650円)
ISBN 978-4-400-40758-4 C1016

なぜそれは必要なのか――

地震大国日本の現実を熟知する地球物理学者・竹本修三氏と、ドイツのエネルギー政策の変遷を研究する木村護郎クリストフ氏。両者による興味尽きないシンポジウムの記録。

はたしてそれは可能なのか――

竹本修三
京都大学名誉教授、原発ゼロをめざす協会の代表
木村護郎クリストフ
上智大学教授、同大学院グローバルスタディーズ研究科国際関係学専攻教授



「日本をとりまく地球環境と脱原発・脱化石・脱火力の本質」をテーマに、脱原発の必然性とエネルギー転換の可能性について、竹本修三氏と木村護郎クリストフ氏が対談した。両者の対談は、脱原発の必然性とエネルギー転換の可能性について、興味深い内容となっている。

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～互いに耳を傾けよう～

シナピスの風

* 行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第148号 2022年5月1日発行

5月の祈り

神の母、わたしたちの母マリアよ、この苦難の時、あなたにより頼みます。母であるあなたは、わたしたちを愛し、わたしたちのことをご存じです。わたしたちは平和の道を見失いました。戦争によって地球の庭を荒廃させ、わたしたちが兄弟姉妹として生きることを望まれる御父のみ心を、罪によって傷つけてしまいました。わたしたちの母よ、あなたの嘆きが、わたしたちの頑なな心を動かしますように。あなたの苦しむ御心が、わたしたちのあわれみの心を動かし、扉を開き、傷つき見捨てられた人々のために尽くす者となりますように。平和の元后聖マリア、世界に平和をお与えください。



教皇フランシスコのロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉獻する祈りから (抜粋)

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

シナピスカフェ



日時：5月11日(水)、14日(土)
18日(水) 25日(水)
いずれも11時頃～16時頃
14日(土)のみ11時頃～16時頃
(軽食があります)

*5月4日(水)はお休みです。

* コロナ感染症の拡大状況により中止になることがあります。お越しになる前にご連絡ください。



場所：シナピスホーム
生野区中川6丁目6-23
連絡先：080-8940-8847



食糧支援のお願い

パスタ、体温計はおかげさまで沢山のご協力をいただきました。日持ちのする食品、ハラル食品、不織布マスク、米などのご支援をお願いいたします。



感謝

シナピス工房 だより

シナピス工房では5月8日(日)の母の日に向けて作品を準備しています。コロナ禍で会えなかったり、普段は家族と話す時間が取れない方も多いと思います。この機会に移住者が手作りしたカーネーションカードで思いを伝えてみるのはいかがでしょうか。メッセージカードと一緒に贈るプレゼントも準備しました。水仕事をするときに便利なりバーシブルミニリストカバー、鍋つかみ、黄麻と呼ばれる麻の一種ジュートで編まれた食器洗いたわし。詳しくはカタログをご覧ください。

カタログ Vol.3

(注文書付) あります
シナピス HP から→



カーネーションカード ¥350(1枚)



リボンがついた表紙を開けると赤とピンクのカーネーションが飛び出します！

ミニリバーシブルリストカバー ¥700(2枚1組)



鍋つかみ ¥500(2つ)

リバーシブル ♪

＝ボランティア大募集中！＝
ミシンで縫物をしてくださる方を募集しています。シナピス工房の作品作りをお手伝いしてください。自宅での作業も大歓迎です。ご興味がある方はシナピスまでご連絡をお願いします。

☆シナピス工房メール会員募集中！☆ 最新カタログが出来次第お送りいたします。

登録希望のメールアドレスから
下記メールアドレスへ連絡もしくは
右側のQRコードからご登録ください。

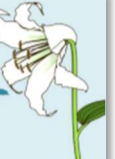


メールアドレス: sinapis@osaka.catholic.jp



オンライン祈りの集い

～世界の平和のために祈る～



5月12日(木) 20:30～(30分)

ロザリオの祈り

開催方法: Zoom

(100名まで参加可能です)



参加用 ID&パスコード、QRコード↑

ミーティング ID: 761 071 2034

パスコード: 123456

人の世に熱あれ、人間に光あれ —水平社宣言100年シンポジウム—

日時: 6月11日(土) 14:00～17:00

場所: サクラファミリア

シンポジスト: 朝治武さん(大阪人権博物館館長)
駒井忠之さん(水平社博物館館長)

コーディネーター: 松浦悟郎さん(名古屋教区司教)
* 無料

共催: カトリック大阪教会管区部落差別人権活動センター(部活センター)

日本カトリック部落差別人権委員会

問い合わせ: ☎075-366-6609 部活センター

✉buraku@kyoto.catholic.jp

ピース9

正義と平和全国集会2021 大阪大会

憲法分科会報告集

『平和をつなぐ～いま、キリスト者として憲法を考える～』

分科会での池住義憲さんの講演、弘田しずえさんのお話と松浦悟郎司教とのトークの内容をまとめました。どうぞご活用ください。

* 冊子の注文は20冊まで、数に限りがあります。冊子は無料ですが、郵送料等のカンパをいただけたら幸いです。

編集・発行: ピース9

* ご注文・お問合せは下記まで
日本カトリック正義と平和協議会
事務局

☎03-5632-4444

✉jccjp@cbcj.catholic.jp



カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス
Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203
URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

表紙：「マリア像の冠について」

ポルトガル出身のヌノ・リマ神父にお聞きしました。

1640年にスペインからの独立をはたした後、ジョアン4世が王位に就くと、無原罪のマリアに彼自身の王冠を捧げました。王は1646年3月の法廷で、ポルトガルにおける無原罪のマリアへの信仰と国の真の主権を宣言。この日以来、もはや王や女王は頭に王冠をかぶることができなくなり、この特権は無原罪のマリアのものとなりました。

ファティマの聖母子像の冠はポルトガルの女性たちが寄付した金を集めて制作されました。現在その冠の中には1981年5月13日に教皇ヨハネ・パウロ2世銃撃の際に教皇に命中した銃弾2発のうち、奇跡的に大動脈の数ミリ手前で止まった銃弾1発が収められています。ポルトガルにおけるマリア様の冠には色々と意味深いものがあります。

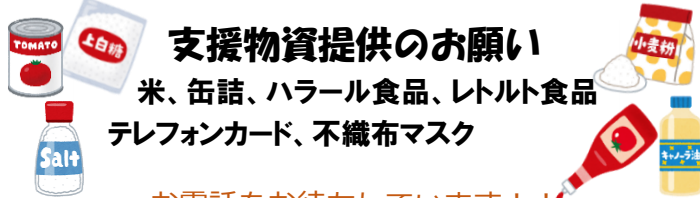
活動へのご支援ご協力

よろしくお願いたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願いたします。



支援物資提供のお願い

米、缶詰、ハラル食品、レトルト食品
テレフォンカード、不織布マスク

お電話をお待ちしています！！

☎06-6942-1784

HPはこちらから▶

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>



世界各地で起きている戦争、紛争が止まない。それに対して多くの人々が「武器を捨て戦争をやめよう」と声を上げている。一方岸田首相は戦後の首相で初めて、敵のミサイル拠点をもたたく反撃能力（敵基地攻撃能力）を保有すると先日の国会で言い放った。憲法が成立して以来、最大の危機だ。憲法の範囲内というが、そもそも守られてはいない。さらに憲法を「改正」し、軍備増強をと自民公明の動きが強まりきな臭い。7月10日の参議院選挙には改憲のための国民投票が行われるのではないかと危惧する。時間がない。国会で改憲案が提案され、発議されれば危機は現実のものになってしまう。改憲を止めなければ、わたしたちもいつ大事な人を失うことになるかわからない。ウクライナの状況を見て、今若者たちの間では自分の身の上にも危険が及ぶのではと危惧する人が増えている。憲法を為政者が操ることは許されない。どんなことがあってもこの平和憲法を守らなければと思いを新たにする。祈りと行動を。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

〒540-0004 大阪府中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

- JR 森ノ宮駅より 約1000m
- 地下鉄中央線森ノ宮2番出口より 約800m
- JR 玉造駅より 約1000m
- 地下鉄長堀鶴見緑地線玉造1番出口より約800m

●車でお越しの場合

- 阪神高速13号東大阪線法円坂出口
- 法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいます

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



忘れない＊あきらめないカレンダー

どんな状況下でも、忘れず、あきらめず、希望をもって歩む皆さまに、情報を配信します。



2022年5月の案内

★印 カトリック関係

2022年 祈禱の信徒 祈りの意向 5月

教皇の意向： 信仰豊かな若者

すべての若者が自らの召命を十分に生きることができるよう祈ります。

よく聴き、深く識別し、信仰を貫き、奉仕に献身した聖母マリアの生き方を知ることができますように。

日本の教会の意向： 困窮者との連帯

経済的な格差が広がる社会の中で、周縁に追いやられた人々と連帯し、支援していくことができますように。

1	日	<ul style="list-style-type: none"> ●「アジアから問われる日本の戦争」展2022 ■場所：エル・おおさか 9,6,5階 10時～19時 入場無料 映画上映会 5階視聴覚室 12時「東アジアの和解と核なき世界への道」14時「望郷の星」 18時「狂夏の烙印」 講演会&ワークショップ 14時～17時 5階研修室2「親たちの戦争体験を受け継ぎ、私たちの世代でできることは？」 主催：「アジアから問われる日本の戦争」展2022実行委員会 問合せ：✉regain_peace@yahoo.co.jp Tel.080-3822-0404 ●講演会「封印された心の傷・戦争神経症」 ■場所：エル・大阪本館5F研修室2 14時～16時40分 講師：黒井秋夫さん(PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会主宰) 資料代：500円 主催：設置理念に則ったピースおおさかを取り戻す会（アジアから問われる日本の戦争展参加） 問合せ：Tel.080-3822-0404 ●第93回 競争ではなく、共生社会の実現を！ 中之島メーデー ■場所：中之島公園剣先ひろば 13時半 主催：第93回中之島メーデー実行委員会 問合せ：Tel. fax06-4793-0735 ●中之島水上メーデー ■場所：剣先公園から天神橋を南に渡った橋の下 集合 10時 水上デモ 12時出航 16時半 西梅田公園にて集合準備 17時～ 討論集会（西梅田公園） 主催：中之島水上メーデー実行委員会 連絡先：市民共同オフィスSORA 自由労働者連合気付 Tel.06-7777-4935 ✉free_workers_federation@riseup.net
2	月	世界まぐるデー
3	火	<p>世界報道自由デー</p> <ul style="list-style-type: none"> ●輝け憲法！ おおさか総がかり集会 ■場所：扇町公園 14時 ミニ講演：湯浅一郎さん（ピースデポ代表） 音楽：MIC SUN LIFE 閉会后、各団体ごとに分散して街頭宣伝 主催：おおさか総がかり行動実行委員会 連絡先：大阪憲法会議・共同センターTel.06-6352-2923 戦争をさせない1000人委員会・大阪Tel.06-6351-0793 しないさせない戦争協力関西ネットワークTel.06-6364-0123 HP：https://www.so-gakari-osaka.net ●市民パレードINとよなか ■場所：豊中市役所前広場 10時半 集合 11時 パレード出発→阪急豊中駅まで 主催：市民パレードINとよなか実行委員会 連絡先✉yuriko99nifty.com fax06-6849-0251 ●戦争させない、9条壊すな！ 5・3兵庫憲法集会 ■場所：神戸・みなとのもり公園 12時半 12時半 ミニコンサート 新井深絵さん（ゴスペルシンガー）13時25分 講演 講師：金平茂紀さん（ジャーナリスト） 14時 閉会后パレード 主催：戦争させない、9条壊すな！総がかり行動兵庫実行委員会 連絡先：中神戸法律事務所 Tel.078-341-3332 fax078-361-9990 ✉sougakarihyogo@gmail.com
4	水	地雷に関する啓発および地雷除去支援のための国際デー
5	木	<ul style="list-style-type: none"> ●芸人9条の会 ■場所：東成区民センター大ホール 13時 第1部：14時～15時20分 第2部：15時40分～17時 全席自由席 出演：笑福亭竹林さん 桂福点さん オオタスセリさん バギやんさん 松元ヒロさん おしどりさん 桂文福さん ナオユキさん 露の信治さん 古今亭菊千代さん ちんどん通信社さん 木戸銭：2000円（前売り） 2500円（当日） 1000円（障がい者、高校生以下） 幼児無料 主催：芸人9条の会 後援：九条の会・おおさか Tel.090-8146-1929 fax06-6731-1699 ✉tamazo@fanto.org
6	金	<ul style="list-style-type: none"> ●講演会「東アジアの平和に向けて 韓国大統領選の背景とその後の動き」 ■場所：PLP会館5F 18時開場 18時半開会 講師：金光男さん 参加費：800円（割引ありご相談ください） 主催：戦争あかん！ロックアクション 連絡先：Tel.090-5063-0073(平日16時以降、土日午後)
7	土	<ul style="list-style-type: none"> ●競争・強制でなく 命と人権を守る教育を！ 5.7集会 ■場所：エル・おおさか南館5F 14時開会 16時半終了予定 講師：桜井智恵子さん（関西学院大学人間福祉研究科教授）「教育は社会をどう変えたのか？～カメラのように思想を使う～」 資料代：500円（学生・障がいのある方無料） Zoom配信あり オンライン参加申し込み ✉hiroimae@yahoo.co.jp(井前) 主催：「日の丸・君が代」強制反対大阪ネット 連絡先✉yamadaK@nike.eonet.ne.jp (山田)
8	日	<p>第2次世界大戦で命を失った人たちのための追悼と和解のためのとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新政権下、ドイツの行方 激変する世界、市民は今？ ■場所：エル・おおさか10F会議室 14時 発題者：木戸衛一さん（大阪大学大学院国際公共政策学科教授） 主催：市民の意見30・関西、小田実を読む ●ドキュメンタリーを視て語るつどい ■場所：大阪市立北区民センター 18時 上映：「ウクライナ侵攻が変える世界2014対立の原点」「革命家レーニン20世紀を変えた男」 会場費300円 主催：映像で現代を語る会 ●5・8沖縄連帯関西集会・デモ 再併合50年弾劾！ 天皇出席の政府式典反対！ 再び琉球弧の島々を戦場にするな！ ■場所：国労大阪会館 13時半 講演：「沖縄の島々・奄美・馬毛島を戦場にするな」16時半からデモ 講師：具志堅隆松さん（ノーモア沖縄戦 命どう宝の会・共同代表、沖縄戦遺骨収集ボランティア・ガマフヤー代表） 資料代：800円 主催：沖縄連帯集会実行委員会 連絡先Tel. fax06-6304-8431
9	月	
10	火	<ul style="list-style-type: none"> ●森友事件は未解決だ！怒りのデモを！ 第60回 ■場所：大阪城公園「世界連邦平和像」前 18時集会 19時デモ出発 主催：「森友学園」疑獄を許すな！実行委員会 連絡先：fax06-6304-8431
11	水	
12	木	
13	金	

14	土	世界渡り鳥デー ●講演会「ちょっと待って!! カジノ計画と維新政治 摂津吹田」■場所：吹田勤労者会館2F大ホール 18時半 講師：桜田照雄さん（阪南大学流通学部教授） 資料代：500円（高校・大学生 障がい者の方は、半額） 主催：5.14講演会実行委員会 連絡先：TEL090 - 7348 - 4525（鎌谷）
15	日	国際家族デー ●「アジール空堀」通算50回記念公演 ■場所：谷六「小劇場ほっとすてんしょん」 15時半開場 16時開演 17時半終演 創作浪曲「医師・中村哲」作・口演・ギター：趙博さん 三味線：沢村豊子さん 参加費：3,500円（別途ドリンク¥500） 要申込 申込先：TEL090 - 3712 - 5346（ショートメール） ●連続講座「私が詩人になるまで」 ■場所：エル・おおさか6階大会議室 14時 講師：丁章さん（詩人） 資料代：500円 Zoom参加可能 主催：グループZAZA 連絡先：TEL090 - 6067 - 0560 ●「軍事要塞化と闘う琉球弧の人びと -宮古島の自衛隊ミサイル基地反対運動-」 ■場所：PLP会館5階大会議室 13時半 開場 14時 開会 16時 閉会 その後デモ 講師：清水早子さん（ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会） 資料代：800円(学生300円) 主催：Stop!辺野古新基地建設!大阪アクション 連絡先：市民共同オフィスSORA・TEL06 - 7777 - 4935 fax06 - 7777 - 4925
16	月	平和に共存する国際デー 光の国際デー
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	世界ミツバチの日
21	土	対話と発展のための世界文化多様性デー 国際お茶の日 ●講演会「広島・長崎から福島へ続く核被害 内部被ばくの危険性を考える」 ■場所：高槻現代劇場文化ホール2階 第1・第2展示室 14時～16時半 写真展 12時開場 講演：高東征二さん（黒い雨訴訟原告） 小山美砂さん（毎日新聞大阪社会部） 資料代：999円 主催：「子ども脱被ばく裁判」を支える会西日本 人権平和高槻市民交流会アスネット 連絡先：✉asunettakatsuki@gmail.com
22	日	国際生物多様性の日
23	月	産科瘻孔をなくすための国際デー ●5.23判決 座り込み集会 ■場所：大阪高等裁判所前公園 9時半 10時15分 大法廷傍聴抽選 11時 判決言い渡し 主催：労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会 連絡先：全港湾関西地方大阪支部TEL06 - 6575 - 3131
24	火	
25	水	●ウクライナ戦争と日本国憲法 九条の会・おおさか 学生トーク・ライブ ■場所：エル・おおさか709号室 18時半 発議：木戸衛一さん（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授）Zoom参加あり 主催：「九条の会・おおさか」 連絡先：TEL090 - 3715 - 3586 ✉info@osaka9.org HP https://osaka9.org/
26	木	●原発賠償関西訴訟 ■場所：大阪地方裁判所本館または別館前 13時集合 14時開廷 問合せ：原発賠償関西訴訟の応援団★KANSAIサポーターズ TEL070 - 5658 - 9566
27	金	
28	土	●なめたらアカンで！労働運動 関生 総決起集会 ■場所：エル・おおさか南館 18時開会 デモ19時半 主催：全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部
29	日	国連平和維持要員の国際デー ●5.29老朽原発このまま廃炉！大集会inおおさか「原発のない明日を」■場所：うつぼ公園 13時集合 14時半デモ 主催：老朽原発うごかすな！実行委員会 HP https://blog.goo.ne.jp/takahamakarakanden ●戦時性暴力をテーマにした作品 宮村信吾一人芝居 あの少女の隣に ■場所：スペースふうら 13時半開場 14時開演 上演・アフタートーク くるみざわしん（作・演出）チケット 要予約・当日清算のみ 前売り・当日共に2000円 主催：「あの少女・木村さん」関西上演実行委員会 申込先TEL090 - 1223 - 7120 ✉2022fuura@gmail.com
30	月	
31	火	世界禁煙デー
1	水	国際親の日
2	木	
3	金	世界自転車デー
4	土	侵略による罪のない幼児犠牲者の国際デー
5	日	世界環境デー ●第27回統一マダン生野 ■場所：異公園（ロート公園・予定）12時 参加無料 主催：第27回統一マダン生野実行委員会 連絡先：TEL06 - 6711 - 6377 fax06 - 6711 - 6378 ✉ikuno@madang.jp

